

六月十一日 つづき

昼過ぎ元ゼミ生富井来室。東南アジアの旅を終えて、大学院入試の意向。奴は眼に力があつて2年生の時から仲々良いと思つていたから世田谷村に来ることをすすめた。よい新人になるだろう。そつえば今朝菜園に上つたら百合の花が満開であつた。そろそろ八車草の花は盛りを過ぎたな。盛夏の花を考えなくては。朝顔は陽差しが強すぎて干からびそつだ。陽陰を作ること考えなくては。

六月十二日

寝苦しい夜を過した。朝久し振りの小雨。梅雨に入ったのか。体調は万全ではないような気がするが良く解らないのが本当のところだ。ここ十数年歯医者以外の医者らしきにかかった事がない。自分でも危ないなと思う事もあるのだけれど、何故だか病院へは行かぬ決心のようなものがあつて、これは固い。倒れてからようやく医者にかかる最悪のタイプなんだろう。

この先、生活雑貨の製作販売をすすめてゆく戦略が仲々むづかしい。インターネット情報をたれ流していれば良いものではないし、たれ流さなければ事は始まらぬのも確かなのだ。スタッフへの課題の出し方もどうやら良くない。私の方に工夫がない。私とスタッフ、チョイスした学生の関係をもっと楽しむ必要があるな。例えば、まだオムツの放れない道明クンの使い方だつて、きつと

ある筈なのだ。何処か、はるか彼方の山のあなた方面に。道明みたいな阿呆がもっと自由にイキイキとなるようなキツカケがデザイン、すなわちモノづくりなんだろうというのは解ってきたのだが、その先の具体的な方法が皆目視えてこない。

十五時埼京線指扇で朝山さん待ち合わせ。土地見学。野草咲き乱れる本当によい土地だった。その後朝山さんの実家見学。大黒柱がすばらしい。この古民家の部材が使えたら面白いプロジェクトになるだろう。彼女の考え方を聞いている内に早稲田バウハウススクールで学生達に何回か出題した「母の家」の課題に自分も対面していることに気付いた。夜南新宿でナリーさん（カンボジア）に教えられた台湾料理屋でいっぱいやった。面白く仕事ができそうなのはやっぱり嬉しい。

六月十三日

胸焼けで苦しい。二日酔いである。全く我ながら馬鹿者です。世田谷市場打合わせ。丹羽平山太田。この類の小モノや生活用品ファッションに関しての太田の感覚は光る。もっと本格的にやってくれたらこの事業はきつとうまくまわるのに。